

2021年度私立大学情報教育協会 グループ分野連携アクティブ・ラーニング対話集会
「栄養学・薬学・医学・歯学・看護学・リハビリテーション学」

ICT を活用した医療系学部合同の生命倫理教育の取組み

東邦大学医学部 医学教育センター
廣井直樹



はじめに

東邦大学では、2008年から「医療現場での多職種連携が可能な人材育成」、「異なる価値観・行動様式を有する他者との関わりに基づくジェネリックスキル獲得」、「帰属意識を構築」、「本学の強み・特色を生かした共同研究や教育連携の向上」の4つを目的として、全学部学生が履修可能な共通教育プログラムとして、“生命倫理シンポジウム”と“チーム医療演習”、“実用医療英語”を実施している。

“生命倫理シンポジウム”は、医・薬・理（臨床検査技師課程）・看護・健康科学部の3または4年次学生が「いのち」について共に考え、討論する機会としている。

COVID-19感染予防の観点から、昨年度からWeb授業として実施している。2021年度の「生命倫理シンポジウム」について、実施計画から実施の実際、アンケート結果について紹介する。



東邦大学の共通教育実施体制

東邦大学共通教育推進委員会

隔月で委員会を開催し、各種授業の準備と実施結果について共有、討論する。
内容は各委員から各学部の教務委員会等で報告共有する。

大森キャンパス

医学部 *

教員 3名
事務職員 2名

看護学部

教員 3名
事務職員 1名

習志野キャンパス

薬学部 **

教員 3名
事務職員 2名

理学部

教員 3名
事務職員 2名

健康科学部

教員 2名
事務職員 1名

生命倫理シンポジウム(医学部)
チーム医療演習(看護学部)
実用医療英語

データサイエンス実践入門(理・薬学部)
COIL型国際交流授業トライアル(医学部)



2021年度生命倫理シンポジウムの目的と背景

平成26年の厚生労働白書では「多くの人にとって『健康』とは身体的に健康であること」であり、「約6割の人が『健康』について不安を抱いている」と報告されている。すべての人が健康でいたいといっても過言ではない。一方、健康に対する考え方は、個人、職種によっても異なっていると考えられる。

WHO憲章では「健康とは、病気でないとか、弱っていないということではなく、肉体的にも、精神的にも、そして社会的にも、すべてが満たされた状態にある」とされている。高齢化社会や生活習慣病の増加をふまえ、国民の健康づくりや疾病予防推進のために、「健康日本21(第2次)」が継続中である。健康増進法第2条でも、健康増進は国民の責務となっている。



2021年度生命倫理シンポジウムの目的と背景

医療系学部であろうとなかろうと、健康というものはすべての学生(人)に関わる問題であり、このような背景を知り、健康について討論することは極めて重要なことであると考えます。「WHOの健康の定義について」「がんや身体障害者は健康でないのか」「健康増進は国民の責務であるべきなのか」「病気を患った人の健康とは」など、話し合う課題は枚挙にいとまない。

今回の生命倫理シンポジウムでは、疾患に特化せずに職種横断的に検討できる内容をテーマとし、「生命倫理を考える」ことに焦点を当てた。議論を通じて、多様な考え方があることを知り、学部を越えて共に考える機会とする。さまざまな価値観にふれることで、『健康』とは何かを改めて見つめ直し、倫理的感受性の育成を目指す。



2021年度生命倫理シンポジウム全体像

医学部

看護学部

薬学部

理学部

健康科学部

562 名

A クラス
(01～08)

B クラス
(09～16)

C クラス
(17～24)

D クラス
(25～32)

E クラス
(33～40)

F クラス
(41～48)

G クラス
(49～56)

H クラス
(57～64)

I クラス
(65～72)

J クラス
(73～80)

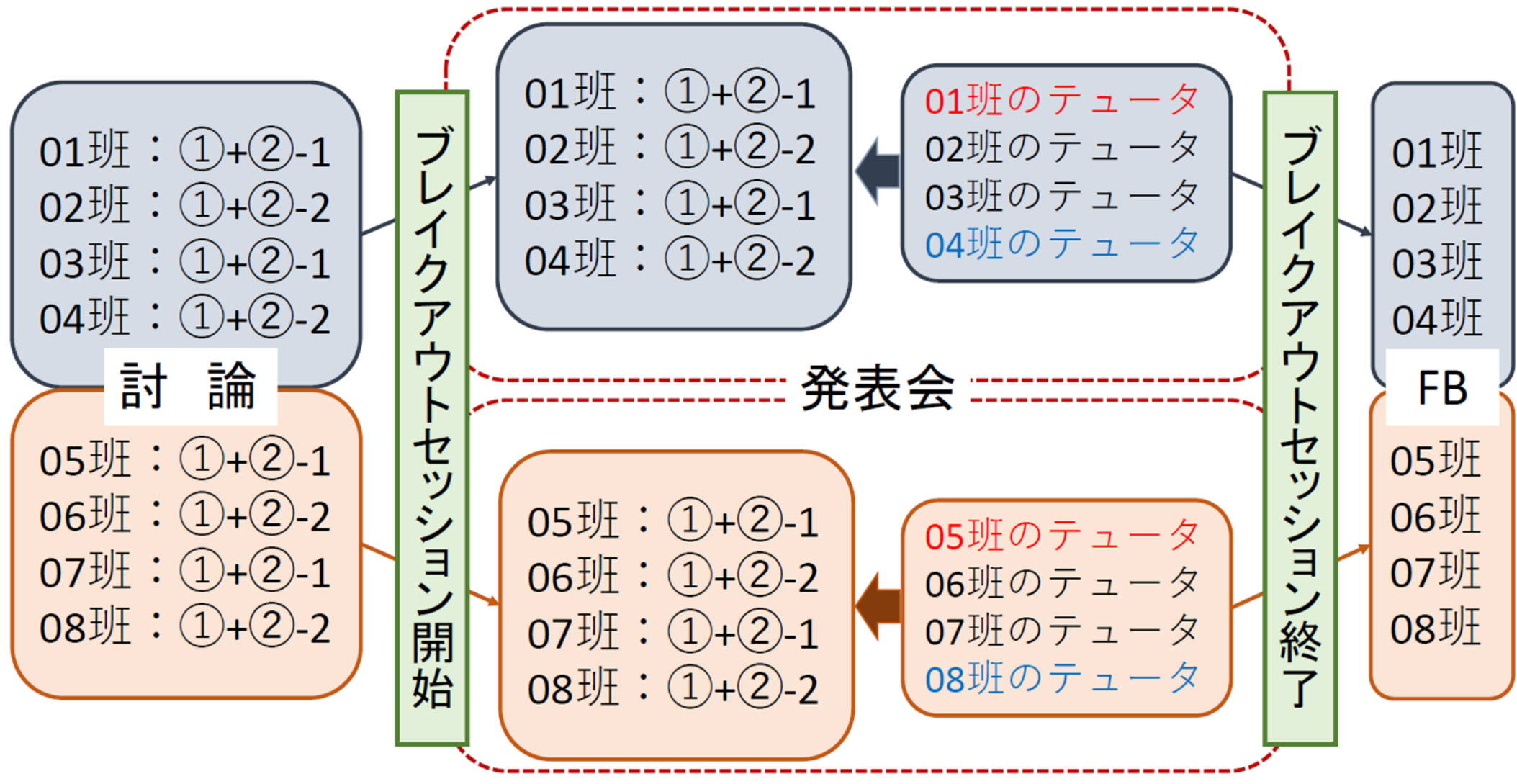
参加学生をA～Jの10クラスに分けており、それぞれのクラスは8グループ(7～8名)で構成される。各グループで事前学修した内容を踏まえて討論し、各クラスを2グループに分けてで発表会をする。

ファシリテータは発表を評価する。



2021年度生命倫理シンポジウム全体像

【発表会について-Aクラスであれば-】



2021年度生命倫理シンポジウムスケジュール(運営)

8. タイムテーブル					
年月	日時	進行	内容	備考	担当
210627	1700	事前学習開始	動画配信開始		
210702	1700	事前学習終了	動画配信終了		
		コアメンバー最終打合せ	会場・当日の流れ・通信環境確認		
メインセッション開始				学事統括部職員が開始する	
	900	授業用Zoom開室 当日動画配信	当日動画配信(1100まで)	直前まで視聴できなかった学生向けに動画を配信する	学事統括部職員(各クラスごとに配信)
	1045	学生退室	学生を退出させる	どうしても退出しない場合は、強制退出させる	学事統括部職員
	1100	委員最終打ち合わせ	最終確認・打ち合わせ(対面)	打ち合わせ終了後、委員は1200までに昼食	各会場担当共通教育教員、職員
	1110	クラス内打合せ	委員とファシリテータ打合せ	各クラスごとのZoom	各会場共通教育委員、ファシリテータ
	1130	学生入室開始		学生の氏名入力方法の確認 入室後、自動振り分けからもれた学生については、BOルームへの登録を並行して実施	事務職員: ①教員を共同ホストにする。 ②学生の入室許可作業 ③BOルーム登録作業 共通教育教員: ①学生の入室許可作業 ②問合せ対応 ③BOルーム登録作業補助
	1200	開会のあいさつ	高松先生ご挨拶動画配信		共通教育教員: 動画配信 事務職員: 問合せ対応
ブレイクアウトルームA開始				事務職員が開始する	
	1205	オリエンテーション	オリエンテーション動画配信		共通教育教員: 動画配信 事務職員: 問合せ対応
	1220	アイスブレイク	所属と氏名、共通点探しゲーム	全体で最も多く共通点を見つけたチームに商品	各グループファシリテータ
ブレイクアウトルーム終了/メインセッション開始				事務職員が終了・開始する	

210703	1233	結果発表	ゲームの結果発表	商品送付は後日	各グループファシリテータ
	1235	休憩①	Zoomからは退出せず、カメラ・マイクoff	休憩終了時の出席確認はファシリテータ	各グループファシリテータが出席確認
	ブレイクアウトルームA開始			事務職員がBOを開始する	
	1240	グループ討論①	「健康増進は国民の責務であるべきか -健康でなければならないのか-」		各グループファシリテータ
	1340	休憩②	Zoomからは退出せず、カメラ・マイクoff	休憩終了時の出席確認はファシリテータ	休憩終了後、各グループファシリテータが出席確認
	1350	グループ討論②	「WHOの健康の定義を批判的に考える」 奇数班「医療者の使命とは何か」 偶数班「合併症のない肥満は不健康なのか」	発表スライド作成も時間内に行う 休憩の指示はファシリテータ	各グループファシリテータ
	ブレイクアウトルーム終了/メインセッション開始			事務職員が終了・開始する	
	1450	休憩③	Zoomからは退出せず、カメラ・マイクoff		共通教育教員はBOルームBに移動し、発表会を行う旨をアナウンスする 事務職員がBOルームBに学生を移動させる
	ブレイクアウトルームB開始				
	1500	発表会	出席確認・進行説明 発表6分/質疑4分/フィードバック2分/ロスタイム1分	4グループ毎で発表会（討論課題は2種類、BOルームは2部屋のみ使用）	各グループファシリテータ
	1557	休憩④	Zoomからは退出せず、カメラ・マイクoff	時間調整用休憩時間	休憩終了後、各グループファシリテータが出席確認、事務職員はBOルームAに学生を移動させる
	ブレイクアウトルームA開始				
	1605	まとめ	フィードバックを受け、発表スライドの修正		各グループファシリテータ
	ブレイクアウトルーム終了/メインセッション開始			事務職員がBO終了	
	1620	アンケート記載	G-Formsで提示		各会場ホスト
	1625	閉会の挨拶	Liveで配信		各会場ホスト

2021年度生命倫理シンポジウムスケジュール(学生・教員)

時間	内容
9:00	当日動画配信(視聴できなかった人用にZoomで配信)
12:00	開会のあいさつ(高松学長)
12:05	オリエンテーション
12:20	アイスブレイク
12:35	休憩①(Zoomからは退出しない)
12:40	グループ討論①
13:40	休憩②(Zoomからは退出しない)
13:50	グループ討論②
14:50	休憩③(Zoomからは退出しない)
15:00	発表会【クラスを半分に分けて4グループごとに実施】
15:57	休憩④(Zoomからは退出しない)
16:05	全体のまとめ・スライド修正
16:20	アンケート記載
16:25	閉会の挨拶
16:30	アンケート記入次第終了



2021年度生命倫理シンポジウム実施概要

「健康」なんて関係ねえ：大阪市立大学

土屋貴志先生

健康でいるのは大変：武蔵国分寺公園クリニック 名郷直樹先生

全ての班が討論内容の資料を作成し、4班ずつのグループに分かれて発表会を実施。

討論① 「健康増進は国民の責務であるべきか-健康でなければならないのか-」

討論②-1 「WHOの健康の定義を批判的に考える-医療者の使命とは何か」

討論②-2 「WHOの健康の定義を批判的に考える-合併症のない肥満は不健康なのか」

各討論は60分間行うが、この討論の間に発表用資料も作成する必要があるので、120分を上手に配分して実施すること。



2021年度生命倫理シンポジウム実施概要

全ての発表はルーブリック(内容とプレゼンテーション)を用いて評価する。
評価観点は以下の4点であり、各項目を4点満点で評価する。

- ① 討論テーマへの言及
- ② 問題提起に対する議論
- ③ スライドの出来栄
- ④ プレゼンテーション



スライドの作成はGoogle Slideを皆で共有して行うので、ぜひ、チームワークを発揮して、各グループ素晴らしい資料を作してほしい。また、発表会を盛り上げてほしい。

👉必ず事前に**Google Slide使い方マニュアル**を確認しておくこと！



円滑なOn Line演習実施のために

令和3年度
東邦大学共通教育
生命倫理シンポジウム
ファシリテーター・共通教育委員

『人は健康でいなければ』

オンラインディスカッション

日時：2021年7月3日

当日の緊急連絡先：

ご協力ありがとうございます

東

令和3年度

生命倫理シンポジウム

2021年6月20日版

東邦大学生命倫理シンポジウム

Zoom オンラインディスカッション

サポーター教員

Zoom オンラインディスカッションに参加するに
Zoom とは Web 会議を行うためのツールです
ムでは実施本部がホストとなって開講しますので
使用してディスカッションに参加してください。

※万が一、PC(カメラ付き)が用意できない場合
※どのデバイスによってアクセスするか、アプリを使
て見え方や双方向のやり取りに違いが生じること
クセスしてください。本紙でも、PC からアプリにア

Zoom を使うための準備

(1) Zoom のアプリをダウンロードしてください

(2) Zoom へのサインイン (Google アカ

1) Zoom のアプリケーションを立ち上げます。

2) 「サインイン」をクリックし、「Google でサイン



3) 大学のメールアドレスとパスワードで Goog
大学のメールアドレスが表示されない場合
メールアドレスとパスワードを入力し、「次へ」

令和3年度
東邦大学共通教育
生命倫理シンポジウム
学生ガイド

『人は健康でいなければ』

オンラインディスカ

日時：2021年7月3日

令和3年度

生命倫理シンポジウム

令和3年度

生命倫理シンポジウム

2021年6月28日版

東邦大学生命倫理シンポジウム
Zoom オンラインディスカッションマニュアル

文責：医学教育センター廣井・中田

オンラインディスカッションを受けるにあたって

Zoom とは Web 会議を行うためのツールです (<https://zoom.us/>)。生命倫理シンポジ
ムでは教員がホストとなって開講しますので、学生のみなさんは、PC やタブレット、スマートフォンを
使用してディスカッションに参加してください。

※デバイスの種類、アプリ/Web によって機能が異なります。またデバイスによって見え方や双方向
のやり取りに違いが生じることがあります。アプリをダウンロードして PC からアクセスすることを推
奨します。本紙でも、PC からアプリにアクセスする方法を説明いたします。

Zoom を使うための準備 (当日の午前中には終わっておくこと)

Zoom の「ミーティング用 Zoom クライアント」(アプリ) をダウンロードしてください
(<https://zoom.us/download>)。

Zoom へのサインイン (Google アカウントで Zoom アカウントを作成)

1) Zoom のアプリケーションを立ち上げます。

2) 「サインイン」をクリックし、「Google でサインイン」を選択します。



すでに Zoom のアカウントを持っている場
合でも、この手順でサインインください。
自動でサインインしてしまう場合は、自分
のアカウントのアイコンを右クリックして「サイ
ンアウト」してから、操作をしてください。

3) 大学のメールアドレスとパスワードで Google にサインインします。

大学のメールアドレスが表示されない場合は「別のアカウントを使用」を選択し、大学の
メールアドレスとパスワードを入力し、「次へ」を選択してください。

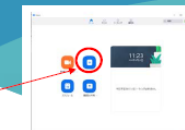
p. 1

令和3年度

生命倫理シンポジウム

※授業担当者は、大学のメールアドレスであなたを認識しています。
必ず学内メールアドレスとパスワードでサインインしてください。

4) 「Zoom Meeting を開く」をクリックします。

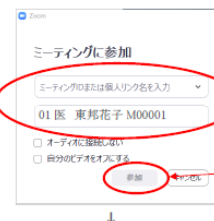


5) 右の画面が出たら、「参加」を選択します。

自分のクラスの ID とユーザー名を入力し、その後、パスワードの順番に入力します。

クラス	ID	パスワード
A	933 8279 8751	283802
B	975 0938 0672	728578
C	978 9747 2951	386525
D	947 9696 5587	102278
E	958 3123 9255	406891
F	963 2489 6856	684606
G	967 8372 3327	751135
H	947 1342 9016	331351
I	957 3193 2110	694394
J	954 5202 8409	818381

※学生が教員よりも先にアクセスすることも可能です。開始時間より 10 分前にアクセスするこ
をオススメします。



<ユーザー名について>
割り当てられた ID をミーティング ID の欄に入力し、下の
段にディスカッショングループ番号(半角)、学部名
(1文字目)、氏名、学籍番号を入力する。それ以外
の名前だと入室できませんので、気を付けてください。
例) グループ 01 の医学部 M00001 の東邦花子さん
→「01 医 東邦花子 M00001」で入室すること。
※グループ番号は半角にすること。

p. 2

円滑なOn Line演習実施のために

堀公俊「ファシリテーション入門第2版」56ページ引用

【討論

合意形成

- ・意思決
- ・対立を
- ・プロセス

合意
まと

ディスカッション

- 1人
- の
- 時
- 発

【討論

討論①

- ・そもそも
- ・なぜ健康
- ・喫煙は健
- ・改正健
- ・あるとき
- ・健康のた
- ・法にもあ

【討論②について-ファシリテーションのヒント-】

討論②-1(奇数グループ)

- ・そもそもWHOの健康の定義は何？(知らなかったら調べるよう、促す)
- ・WHOの健康の定義で問題だと思うのはどこ？☞土屋先生の動画内には土屋先生の意見がでていたが、それが正解というわけではない。
- ・健康を目指さないのならば、医療者は何を指標にして関わればよいの？☞QOLに目が向けばGood
- ・医療の目的は何？
- ・不健康の自由を謳歌する人に、医療者はどう関われるのか？
- ・不健康の自由を謳歌していいよ、という社会になったら、どんな問題が生じると思う？☞(医療者不足、医療費不足・・・など)

討論②-2(偶数グループ)

- ・そもそもWHOの健康の定義は何？(知らなかったら調べるよう、促す)
- ・WHOの健康の定義で問題だと思うのはどこ？☞土屋先生の動画内には土屋先生の意見がでていたが、それが正解というわけではない。
- ・なぜ肥満が問題視されるのか？
- ・合併症のない肥満の人には医療を提供する？しない？それはなぜ？
- ・肥満であることが誰にとって害/不利益なのか？
- ・WHOの健康の定義に照らし合わせると、合併症のない肥満は健康ですか？不健康ですか？



実施本部とチュータスタジオ



基調講演要旨-1-

基調講演 『「健康」なんて関係ねえ』: 大阪市立大学の土屋貴志先生
自身の経験をもとに、以下の点を中心にOnDemand講演していただいた。

- ①病気とともに生きるしかない人の健康
- ②「健康」とは抽象的な概念であり、それは何か？ 良いことか？
- ③健康よりも生きることの大切さ-生きることで精いっぱい-
- ④しんどい、苦しいことは不便・不運・不幸なのか-健康でなければ幸せでないのか-

- 「しんどいですか？」「つらいですか？」「苦しいですか？」という問いには、「はい」と答えてよい。
- 「楽になりたいですか？」という問いにも、「はい」と答えてよい。
- しかし、だからといって「やはり健康でなければ幸せではないですよ？」という問いには、すぐに答えてはいけない。
- まず、「あなたが言う『幸せ』って、どういうことか？」と反問すべき



基調講演要旨-1-

基調講演『健康でいるのは大変』武蔵国分寺公園クリニックの名郷直樹先生自身の臨床経験をもとに、以下の点を中心にOnDemand講演していただいた。

- ①健康を目指すことこそが有害
- ②治療をすることは、副作用でかえって不健康になる可能性をはらむ
- ③寝たきりを排除しようとするとな大部分の高齢者が排除される
- ④健康長寿を目指す達成できる人はほとんどおらず、みんなが不幸になる

- 健康を目指す社会は健康を害した人を責める社会と紙一重
- 健康は不健康を生む-不健康がなければ、健康もない-
 - ✓ 健康でないと生きづらい、健康でなくても生きやすい
 - ✓ ボケたら大変という社会、ボケてもいいんですよという社会
 - ✓ 寝たきりになったら大変という社会、寝たきりになってもいいんという社会



学生討論画面

Zoom ミーティング - room77

5219061yが待機室に入室しました [メインセッションへの入室を許可](#) [表示](#) [×](#)

表示

1/2

1/2

未割り当ての1人の参加者

ミュート解除 [ビデオの停止](#) [ビデオの停止 \(Alt+V\)](#) [参加者](#) [チャット](#) [画面の共有](#) [レコーディング](#) [ブレイクアウトルーム](#) [リアクション](#) [ルームを退出する](#)

学生発表資料-1-



Aクラス 05グループ

みんな考える健康とは...

健康の捉え方は他人によって違う。身体的に健康であっても精神的に健康でない人もいます。

その人にとっての心
ってしまふなら健康
いけないとは思わな

人によって健康の考え方は
その人の価値観によって変
わなければならないかどうかが
健康であるべきという考え
人もいるのでは？

一般に不健康だと思われて
こともその人にとっては精
な健康になっているかもし
い。健康の捉え方はそれぞ

健康増進は国民の責務であるべきか

【健康増進を

- 医療費削減
- 労働人口
- 平均寿命
- 国民一人

『健康増

WHOの健康の定義を批判的に考える

【WHOの定義に

- 抽象的で見た目
- 完全に良好な状
- 障害者は健康と
- 身体的、精神的
- 健康は多様性が

医療者の使命とは...

疾患だけではなく
身体的・精神的・社会的など全体的にみて患者さんに寄り添うこと

そのために...

- 健康の増進というよりも、疾病の寛解や予防への働きかけ
- 患者さんに足りない部分を補う
→医療・社会資源の提供
- QOLの向上へのサポート
→患者さんが必要としていることを知る
→患者さんの周囲、環境を知る
- 患者さんに気軽に頼って貰える存在になること(適切な距離感)
→コミュニケーション、相手のことを知ろうとする姿勢が信頼を得る
→事前の情報収集（入院前の情報）



学生発表資料-2-

健康
WHO
メ

1
2
3
4

結論

不健康であるとは言い切れない

WHOの定義からすると、
主に肉体的、精神的に良好な状態ではないことが起こりやすい
→ **不健康な可能性大**

肉体的・精神的・社会的な要素はそれぞれが影響しあっている関係である為、1つが欠けていても他で補い合えていれば健康

ルーブリック評価(プレゼンテーション)

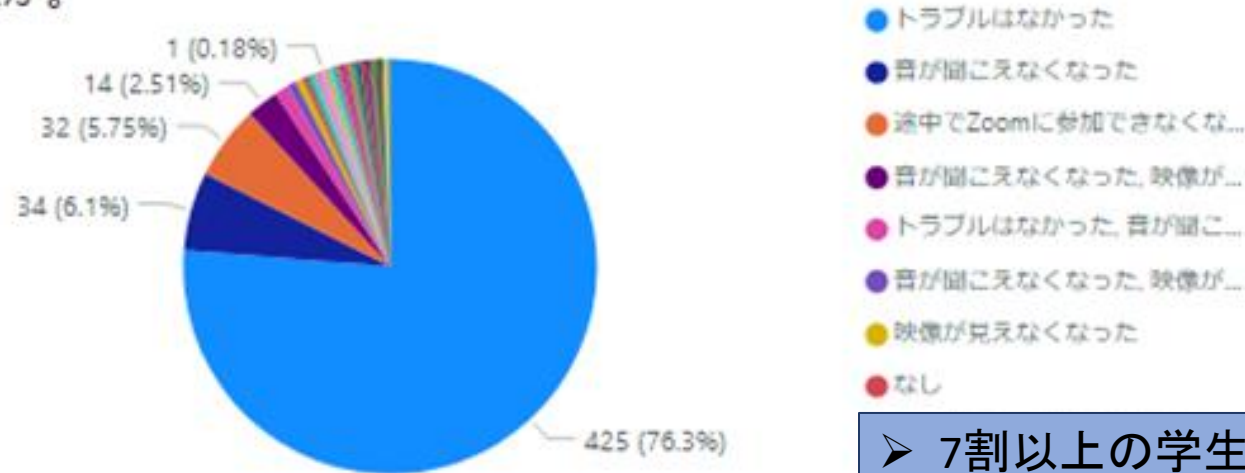
班番号	出席(発表会時)		不在・欠席者		※評点で悩んだら、上の点数に切り上げてください。			
			※不在者の学籍番号を記入					
	全員出席	☐			討論テーマ	(4・3・2・1)	出来栄え	(4・3・2・1)
	不在者あり	☐			問題提起	(4・3・2・1)	プレゼン	(4・3・2・1)
	全員出席	☐			討論テーマ	(4・3・2・1)	出来栄え	(4・3・2・1)
	不在者あり	☐			問題提起	(4・3・2・1)	プレゼン	(4・3・2・1)
	全員出席	☐			討論テーマ	(4・3・2・1)	出来栄え	(4・3・2・1)
	不在者あり	☐			問題提起	(4・3・2・1)	プレゼン	(4・3・2・1)
	全員出席	☐			討論テーマ	(4・3・2・1)	出来栄え	(4・3・2・1)
	不在者あり	☐			問題提起	(4・3・2・1)	プレゼン	(4・3・2・1)

到達目標/評価基準	4	3	2	1
討論テーマへの言及	健康増進は国民の責務であるべきか(討論①)と各班に割り振られたテーマ(討論②)の両方の討論に触れ、論理的に自分たちの意見を述べている。	健康増進は国民の責務であるべきか(討論①)と各班に割り振られたテーマ(討論②)の両方の討論に触れているが、論理的な意見ではない。	健康増進は国民の責務であるべきか(討論①)と各班に割り振られたテーマ(討論②)のいずれかの討論が述べられていない。	討論の内容があいまいで、支離滅裂な発表である。
問題提起に対する議論	WHOの健康の定義を議論し、自分たちなりの回答を起承転結で述べている。	WHOの健康の定義を議論したことを述べているが、起承転結は不十分である。	WHOの健康の定義を議論したことには触れているが、内容については発表がない。	WHOの健康の定義を議論したことがわからない。
スライドの出来栄え	1枚のスライドの情報量が適切で、極めて理解しやすいスライドである	1枚のスライドの情報量がやや多いもしくはやや少ないが、スライドとしては見やすい	スライドの情報量がかなり多いもしくはかなり少ないが、言いたいことは伝わる	スライドだけを見ても何を言いたいのかわからない
プレゼンテーション	①6分±15秒以内である ②誤字脱字がない ③聴衆を意識した発表 上記3つすべてを満たしている	3つのうち2つを満たしている	3つのうち1つを満たしている	3つのうち1つも満たしていない



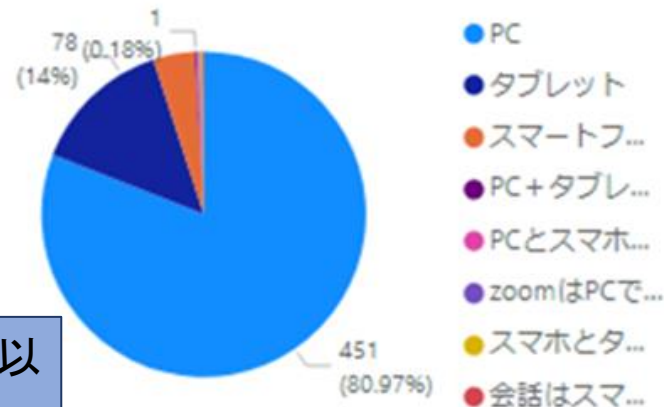
学生アンケート結果-1-

5-1) オンラインディスカッション中に通信環境で困ったことはありましたか。



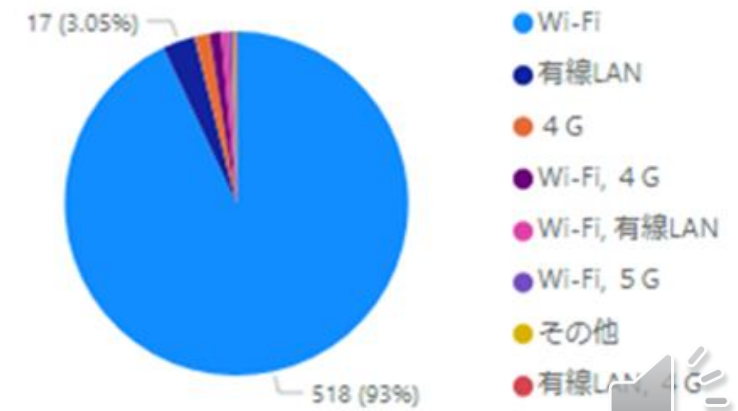
➤ 7割以上の学生は、トラブルなく受講できたと回答。

1-2) オンラインディスカッションはどのデバイスで参加しましたか。



➤ 7割弱の学生がPCにて受講。また、9割以上の学生はWi-Fiを用いて参加。

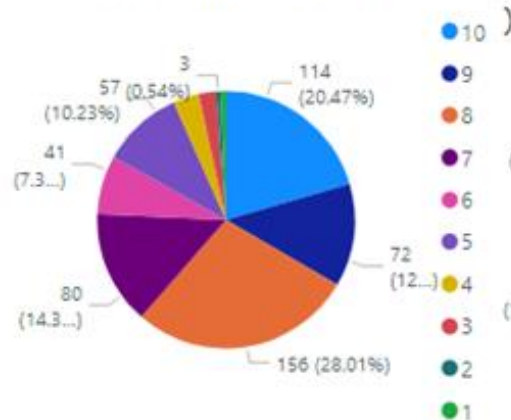
1-3) オンラインディスカッションはどんなネットワーク環境で参加しましたか。



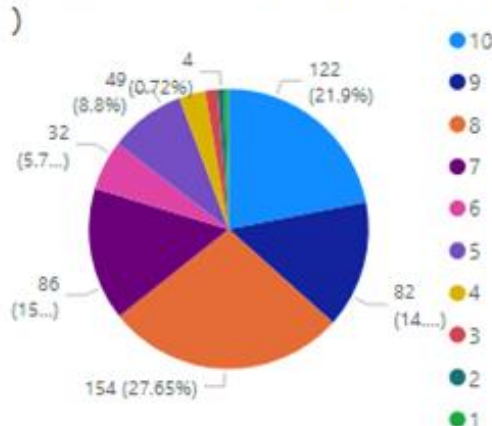
学生アンケート結果-2-

【基調講演1 『「健康」なんて関係ねえ』について】

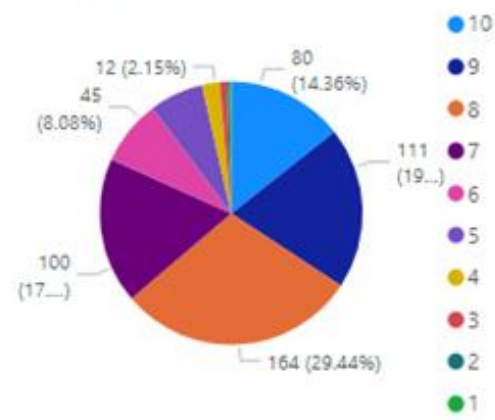
3-1) 講演内容の興味深さはどうでしたか (低→高: 1→10)



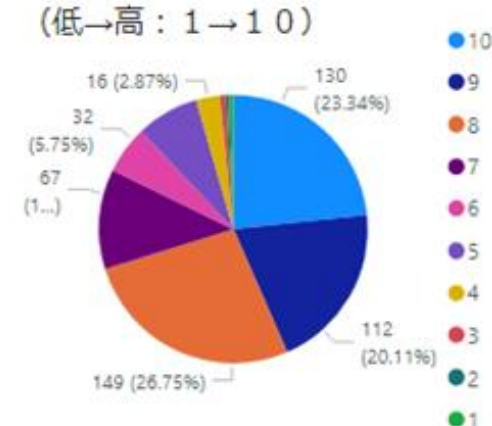
3-2) ディスカッションをするうえで有用でしたか (低→高: 1→10)



3-3) 内容をどの程度理解できましたか (低→高: 1→10)

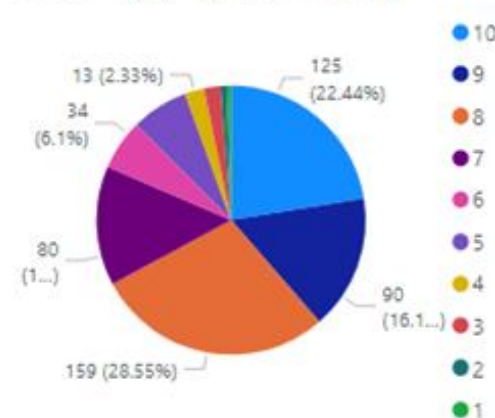


3-4) 医療者のキャリアを考えたときにどの程度有用な内容でしたか (低→高: 1→10)

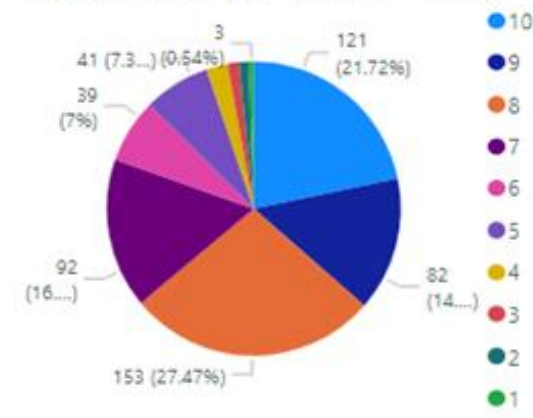


【基調講演2 「健康でいるのは大変」について】

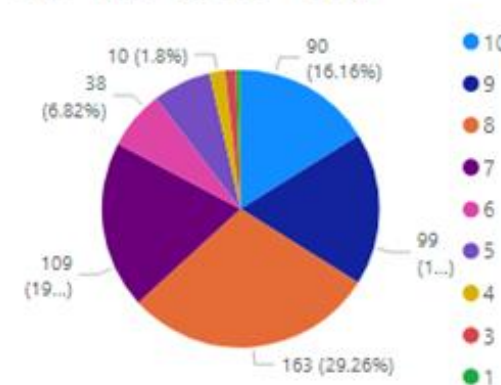
4-1) 講義内容の興味深さはどうでしたか (低→高: 1→10)



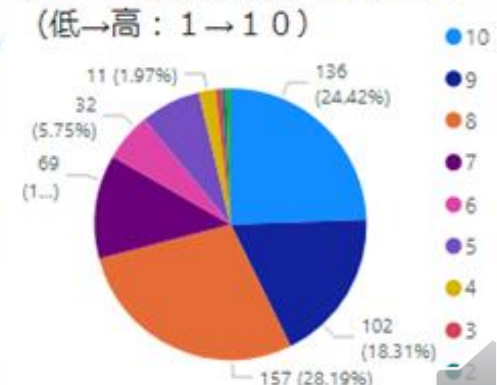
4-2) ディスカッションをするうえで有用でしたか (低→高: 1→10)



4-3) 内容をどの程度理解できましたか (低→高: 1→10)



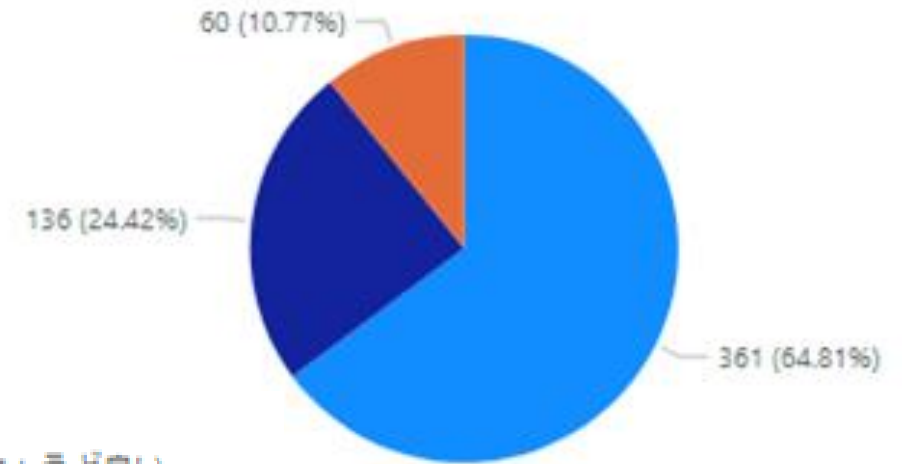
4-4) 医療者のキャリアを考えたときにどの程度有用な内容でしたか (低→高: 1→10)



学生アンケート結果-3-

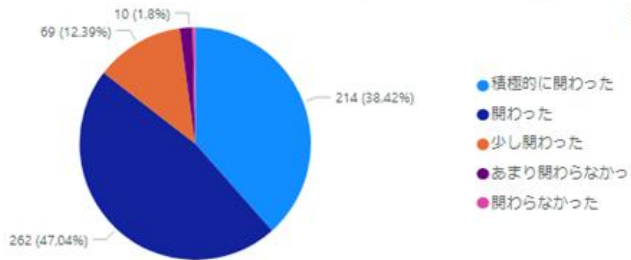
- 「ちょうど良い」と答えた学生が6割以上いた。
- 一方、長いと答えた学生も2割程度いたが、短いと答えた学生も1割程度おり、意見が分かれた。

5-2) オンラインディスカッションの時間

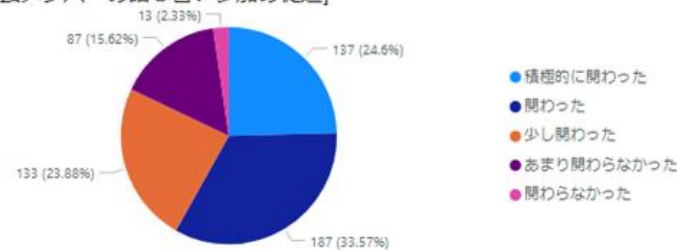


- ちょうど良い
- 長い
- 短い

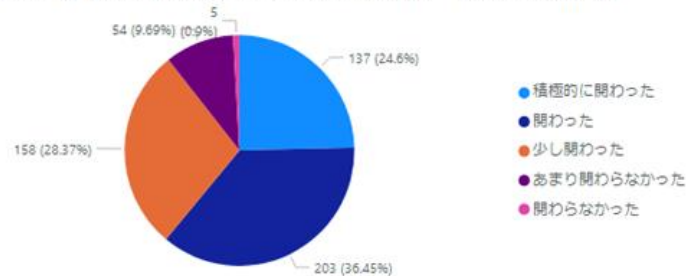
5-3) オンラインディスカッションへの関わり [話し合いへの参加]



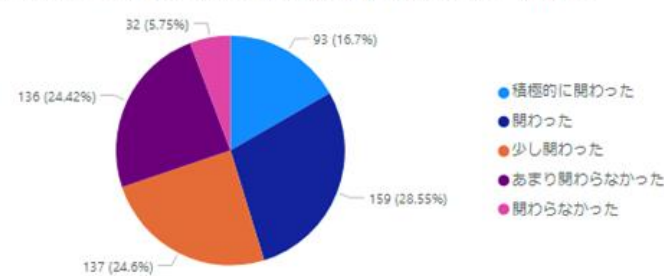
5-3) オンラインディスカッションへの関わり [チームメンバーの話し合い参加の促進]



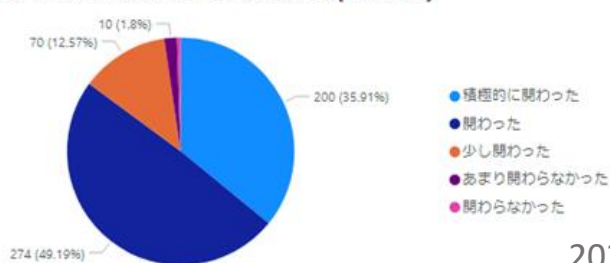
5-3) オンラインディスカッションへの関わり [チームの雰囲気作り]



5-3) オンラインディスカッションへの関わり [スケジュール管理]



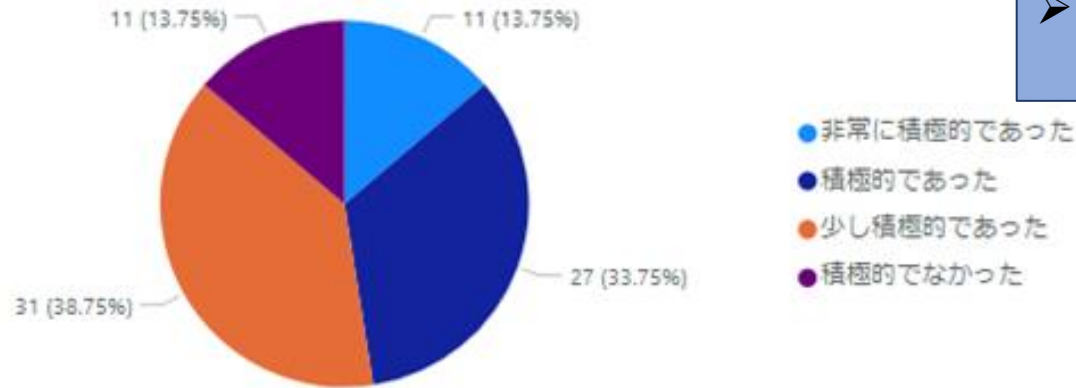
5-3) オンラインディスカッションへの関わり [課題達成]



- 全体的に、積極的に関わったと答える学生が多く、特に、「話し合いへの参加」・「課題達成」については、8割以上の学生が関わったと回答。一方、スケジュール管理については、関わったと答えた学生が半数以下であった。

教員アンケート結果-1-

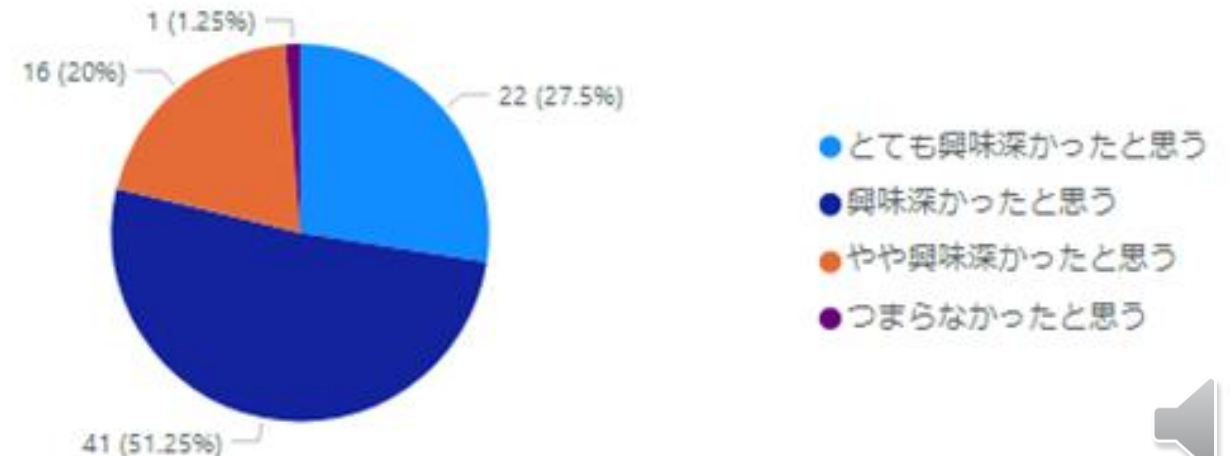
1-1) 参加状況について当てはまるものを選択してください。



➤ 学生の参加の程度については、非常に積極的、積極的と答えた教員は5割弱だった。

➤ 教員の通信環境は研究室から参加した教員が約7割であり、通信トラブルはほとんどなかった。

5-1) 本日のディスカッションテーマは、学生にとって興味深かったと思いますか。

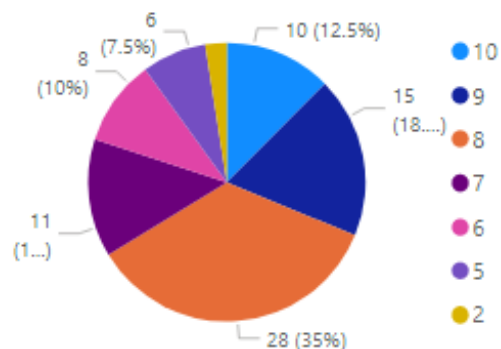


➤ 「とても興味深かったと思う」、「興味深かったと思う」と回答した教員が8割弱おり、全体的に評価が高かった。

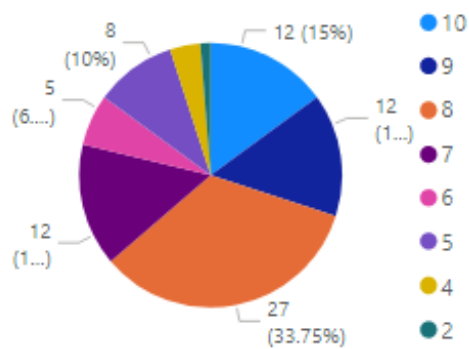
教員アンケート結果-2-

【基調講演1 『「健康」なんて関係ねえ』について】

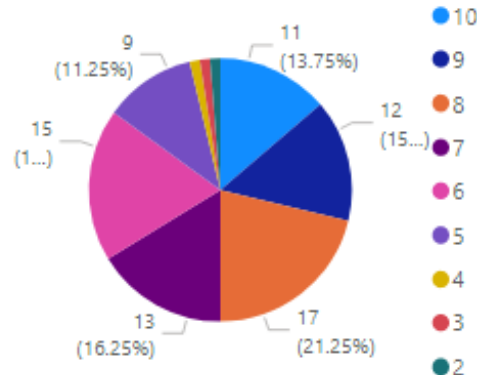
3-1) 学生にとって、興味深い講演内容でしたか (低→高: 1→10)



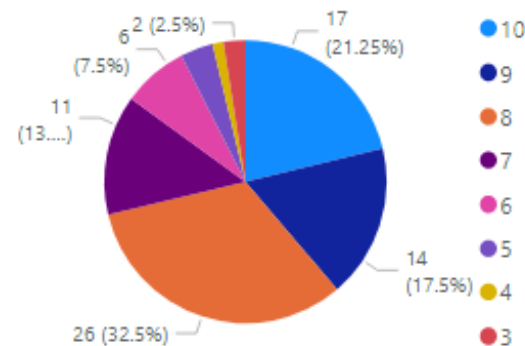
3-2) 学生がディスカッションをするうえで有用な内容でしたか (低→高: 1→10)



3-3) 学生は内容をどの程度理解できたと思いますか (低→高: 1→10)

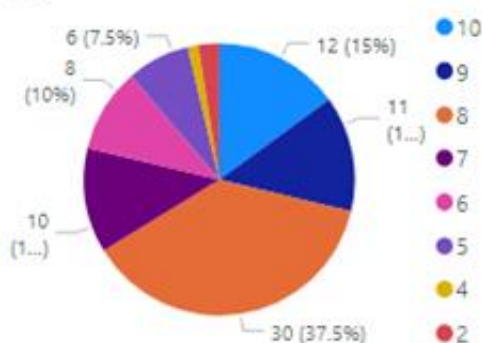


3-4) 学生の医療者としてのキャリアを考えたときにどの程度有用な内容でしたか (低→高: 1→10)

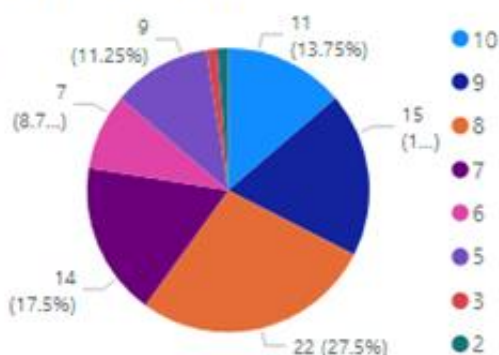


【基調講演2 「健康でいるのは大変」について】

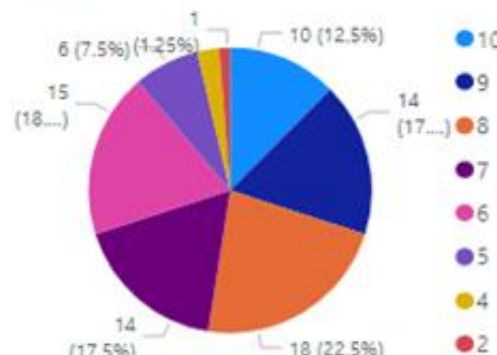
4-1) 学生にとって、興味深い講演内容でしたか (低→高: 1→10)



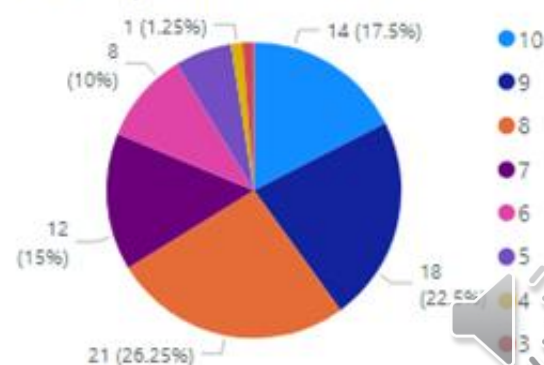
4-2) 学生がディスカッションをするうえで有用な内容でしたか (低→高: 1→10)



4-3) 学生は内容をどの程度理解できたと思いますか (低→高: 1→10)

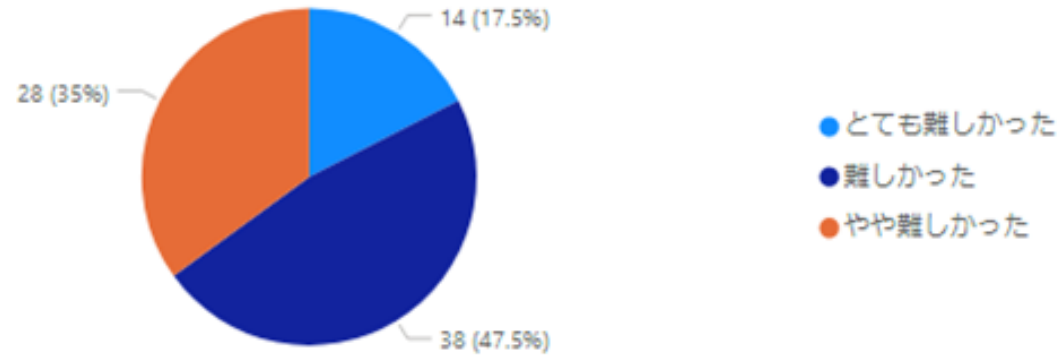


4-4) 学生の医療者としてのキャリアを考えたときにどの程度有用な内容でしたか (低→高: 1→10)



教員アンケート結果-3-

5-2) 先生にとって、本日のテーマでのファシリテーションはいかがでしたか。



➤ 「とても難しかった」、「難しかった」と答えた教員が6割以上であった。

来年の生命倫理シンポジウムでも、ファシリテータとしてご協力いただけますでしょうか？



➤ 9割以上が来年も都合がつけば協力したいと回答しており、討論テーマの興味部会という意見と合わせると、来年度以降も多くの協力が見込まれる。



アンケート自由記載結果

【学生】

- 移動の手間がなく、オンラインで良かったとの意見が多かった。
- 対面の方がやりやすいという声もあった。
- 「他学部との交流の機会が持ててとても良かった」という意見が多かった。
- 「討論時間をもっと取りたかった」、「他者の意見を聞くことで気づきがあった」との意見が多く見られた。
- 「チュータに助けられた」という声も多く、感謝が述べられていた。
- 意見を述べても全く反応がなく、辛かったという声も見られた。

【教員】

- ファシリテーションについては難しく、評価をするのが難しかったとの意見が見られた。
- 「考えさせられたことも多かった」、「教員としての気づきがあった」といった肯定的な意見があった一方、「負担がかなり大きかった」や「力不足も感じた」等の意見もあった。
- 予想を軽々と飛び越える議論が見られ、学生に主体性を持たせたほうがもっと凄い議論になるのと思われた。



まとめ

【実施準備について】

- 責任学部の教員が目的と運用方法を検討するが、全学共通組織である「共通教育推進委員会」で時間をかけて、準備を行った。
- 共通教育推進委員会のイベントであった「生命倫理シンポジウム」が、全学部から80名の教員が参加する大学の授業として実施したことで一体感が生まれたと思われた。
- 対面開催と異なり、多くの教員が参加することで、適切な授業運営が可能となった。
- 教員からも、今後継続して協力したい、多くの教員が協力できるような仕組みづくりを期待する意見が多く見られた。

【討論内容について】

- 概ね好意的な評価であったと思われる。
- 答えの出ない討論に対して、討論時間が不十分であった印象ではあったが、他学部の学生と長い時間話し合う環境が持てたことは高評価であった。
- 複数回開催を希望する声が、複数の学生から出された。
- 講義やテキストの内容について自分でじっくり考えることもしないまま質問する学生が散見されたことは今後の課題であると思われた。



謝辞

この授業の実施に関与したすべての教職員、学生に感謝します。

